

中和抗体薬（点滴薬）・経口薬の治療実績

令和4年7月22日
保健福祉局保健所

(1) 中和抗体薬（ゼビュディ）の治療実績

	4月11日	7月19日
入院受入医療機関の40病院（49病院のうち49病院登録済み）	961	1,278(+317)
※BA.1に効果があり活用してきたがBA.2系統には有効性が減弱するおそれがあり、他の治療薬を検討した上での投与が必要		

(2) 抗体カクテル療法（ロナプリーブ）の治療実績

	4月11日	7月19日
入院受入医療機関の49病院（49病院中）を含む50か所の医療機関等	516	518(+2)
※オミクロン株に対しては、中和活性が低下することから投与が推奨されていない（厚労省）		

(1) + (2) 中和抗体薬（点滴薬）の治療実績 **合計 1,796人(+319)**

(3) 経口薬（ラゲブリオ）の治療実績

	4月11日	7月19日
入院受入医療機関の37病院（49病院のうち49病院登録済み）を含む医療機関等	1,802	3,354(+1,552)

(4) 経口薬（パキロビッド）の治療実績

	4月11日	7月19日
入院受入医療機関の15病院（49病院のうち48病院登録済み）を含む医療機関等	46	143(+97)

(3) + (4) 経口薬の治療実績 **合計 3,497人(+1,649)**

1 下水サーベイランス※の有用性 ※ 下水中のウイルスを検査・監視すること

**新型コロナウイルスの感染者は、症状の有無にかかわらず
糞便中にウイルスRNAを排出**

- ・下水インフラの特性を利用
→ 処理区域内の下水は下水処理場に集積
→ 臨床検査のみでは捉えきれない、無症状感染者の存在も把握可能
- ・検査コストや個人情報の課題を克服
→ 低コスト、個人を特定しない“匿名”の疫学調査が可能



検査に行かなくてもお手洗いには必ず行く



イメージ図提供：
北海道大学 北島正章准教授

2 本市における調査概要

調査期間

令和3年2月から北海道大学へ調査分析を委託

対象施設

都心部に近く大規模な水再生プラザ3施設（人口の約52%をカバー）

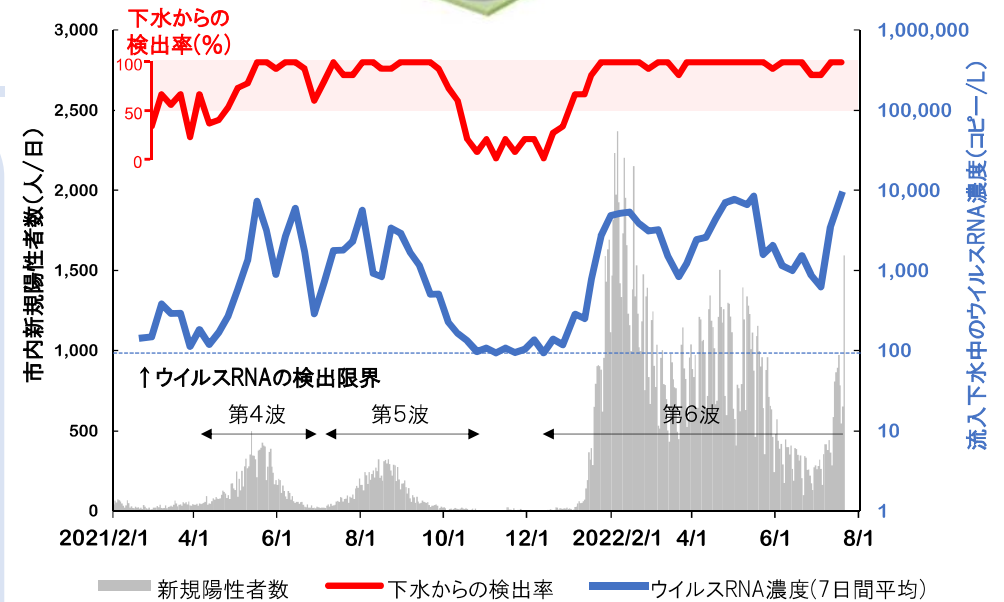
調査内容

週3回流入下水を採水し、下水中のウイルスRNA濃度を測定

令和4年7月～令和5年1月については、
内閣官房「下水サーベイランスの活用に関する実証事業」に参画

週3回の調査に加えて、
ウイルスRNA濃度の日間変動調査・将来感染者数の予測方法の検討

→ 国や関係部局と連携・協力しながら検証を進め、
下水サーベイランスの活用に向けて取り組む



- ・新規陽性者数と下水中のウイルスRNA濃度の変動が類似
→ 下水から感染者数の変動を把握可能
- ・感染流行期に下水からのウイルス検出率が上昇
→ 下水から感染の面的な広がりを把握可能

下水中の新型コロナウイルス調査結果

令和4年7月22日 下水道河川局

	前回報告 (7/5~7/11)	直近一週間 (7/13~7/19)	増減
下水からの検出率※1	100 %	100 %	⇒ ±0 P
下水中のウイルス濃度※2	3,490 コピー/L	8,790 コピー/L	⇒ ×2.5倍
新規陽性者数	2,535 人/週	5,455 人/週	⇒ ×2.2倍

✓ 検出率は100%を維持し、依然として**市中の広範囲に感染者が存在している**と推察されます。
 ✓ ウイルス濃度は過去最大の値を記録しており、**感染者数の急激な増加が懸念**されます。

※1 下水からの検出率とは、分析した下水サンプル数のうちウイルス遺伝子が検出されたサンプル数の割合を示す。

※2 下水中のウイルス濃度とは、下水1Lに含まれるウイルス遺伝子の断片(コピー)の数を示す。

